

メロン農家とスポーツインストラクター
を兼ねる「二刀流」



マルニラアーム (木造丸山)

工藤 亜梨菜 さん

工藤亜梨菜さんは、県内外でスポーツインストラクターとして働く傍ら「いつかは実家のメロン農家を継ぎたい!」と強い思いがあり、2年ほど前に地元に戻り、昨年から本格的に両親と一緒にメロンの生産に力を注いでいます。

農林水産省が公表している令和元年市町村別農業産出額によると、メロンの産出額が茨城県鉾田市、熊本県熊本市に次いで全国第3位を誇るつがる市。全国有数のメロン産地で、メロンを愛し、メロンを研究し、美味しいメロンを作るために「けっばるわけもの」がいます。



絵入りメロンを通じてつがる市産のメロンを有名にしたい!

アマビエの絵入りメロンが話題を呼び、テレビや新聞などにも多数取り上げられている工藤さん。今年もアマビエの絵入りメロンを約100個、それに加え「つがるちゃん」や「ありがとう」のメッセージ入りなども含めると計200個ほどの絵入りメロンを生産。

工藤さんが絵入りメロンを作り始めたきっかけは「小さい頃にお父さんが私の名前を描いたメロンを作ってくれた。それを見よう見まねで挑戦した」と話します。

そもそも、メロンの網目模様は、どのようにしてできるのでしょうか。メロンが生育中の果肉が肥大すると、表皮には伸縮性がないため、ひび割れが生じます。そのひび割れを治そうとしてできるのが網目です。人間でいうと「かさぶた」のようなものになります。

「絵を彫ったメロンには愛着が湧き、毎日生育を見るのが楽しみ。収穫するまでドキドキしている」と笑顔で話しながらも、「メロンに絵を彫る深さの加減がすごく難しい。浅すぎると絵が薄く、深すぎるとメロンが割れてしまう」と教えてくれました。さらにメロンの個体差もあって、必ずしも綺麗に絵ができるものではないそうです。失敗を想定して予備も作っておく必要があります。絵が綺麗なものはいくらおいしいメロンでも規格外になってしまいます。

手間もかかり、規格外のメロンができるリスクがあるにもかかわらず絵入りメロンを作る理由は「つがる市産のメロンをもっと多くの人に知ってもらいたいから。津軽地域では、つがる市産のメロンは定着しているが、県南や県外になるとまだまだ知らない人の方が多い。一度食べてもら

えれば、そのおいしさを分かってもらえる」と話します。高品質でおいしいつがる市産のメロンを全国に広めたいという熱い思いを感じました。

現在、工藤さんはメロン農家をやりながらスポーツインストラクターとしても活動中。「今、自分がやりたいことがやれていると実感している」と表情は輝いていました。



今年作った絵入りメロン

プランターメロン収穫祭

和3年8月17日(火) 場所: イオンモールつがる柏 シャコちゃんコート

プランターメロンの達人

仲の良い3人は集まるといつもメロンの話ばかりしています。今やっている作業や使っている資材のことなど話題は尽きません。そんな研究熱心な3人は、忙しい農作業の合間を縫い、平成28年からイオンモールつがる柏でプランターメロンを展示しています。



木造福原

高橋

佑弥さん

木造吹原

新岡

賢亮さん

木造吹原

坂本

新さん

メロンに情熱を注ぐ “わけもの”



プランターメロンを園児にプレゼント

5月28日に鉢植えし、7月8日からダイソーイオンモールつがる柏店で展示しているプランターメロンが収穫を迎えました。

今年のプランターメロンの出来を聞くと「今年は暑い日が多かったので良くできた。見た目もいいし、食べばただめえびょん！」と笑って話す坂本さん。

お盆も明けた8月17日、イオンモールつがる柏しゃこちゃんコートで、しばた保育園の園児20人を招き、今年育てた25鉢のプランターメロンを一緒に収穫しました。園児たちは若手メロン農家にハサミの入れ方を教わりながら、丁寧に収穫しました。

プランターメロン収穫の様子



ずっしりと重く大きな玉に育ったメロンを両手でしっかりと抱えた園児たちは「ハサミで切るのが楽しかった」「メロンは甘くておいしいから好き」「パパ、ママと一緒に食べたい」など嬉しそうに感想を話してくれました。



計算されたプランターメロン

タカミメロンの最盛期は、本市では7月下旬からお盆前までが一般的です。メロンは、着果から50〜55日、積算温度が1000度で収穫期を迎えます。若手メロン農家の3人は、ちょうど8月17日に収穫期が来るように、日数と積算温度を計算し生育状況を緻密に管理しています。



苦勞よりも喜び

「メロンがどのように育ていくのか、その過程も見ている」と話すのは高橋さん。坂本さんは「メロンは生き物なので、毎年同じということはない。毎日観察することが大事」と管理のコツを教えてくださいました。

メロン農家の3人に何うと、5月は定植をはじめ多くの作業が重なる時期なので特に忙しい。朝は明るくなる前から夜は7時ころまで作業することもあるそうです。「それでも食べた人に『美味しい!』と言ってもらえたときは一番うれしい。苦勞よりも喜びが大きい」と新岡さんは話します。「もつとつがる市のメロンが注目されるようになってほしい!」と3人は口マンに満ちていました。